



小児科おしえてドクター!

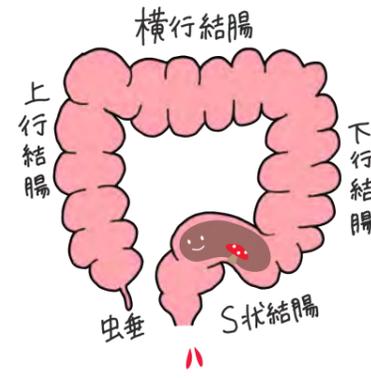
小児科マメ知識

子どもの血便シリーズ1回目は腸重積について、2回目は感染症による血便についてご紹介しました。今回はその他の子どもの血便の原因についてお話しします。

消化管ポリープ

1つは消化管ポリープです。ポリープは腸の内面(粘膜表面)にキノコ状に盛り上がり過ぎてできた“できもの”で、便が通過するときにポリープ表面から出血して血便となります。子どもの消化管ポリープの約90%は若年性ポリープといって、良性のもので3〜5歳に起こりや

すく、10歳くらいまでに見つかることが多いとされています。便の出口である肛門に近いS状結腸、直腸にできることが多く、便のまわりに赤い血がべつとりとついで“切れ痔”と間違われていることもあります。内視鏡検査をすることで診断と同時に切除する治療も可能です。ポリープが多数できている場合は、若年性ポリープシス症候群など別の病気を考える必要があり専門的な診療を受けることが大切です。



潰瘍性大腸炎とクローン病

もう1つは炎症性腸疾患です。腸に慢性的な炎症が起こる病気で、代表的なものに潰瘍性大腸炎とクローン病があります。近年、日本でも患者数が増加しています。

腹痛と血便 その3

がんの原因

子宮頸がん予防ワクチン

子宮頸がんはパピローマウイルス(HPV)が原因となっており、がんです。HPVは子供のみずいぼなどをはじめとして、いろいろな「いぼ」の原因となるウイルスで、100種類以上あるうちの13種類程度ががんの原因となることがわかっています。

30代40代に多い理由

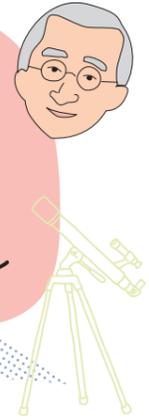
日本では、1年に約1万人の女性が子宮頸がんを診断されていますが、性行為開始の年齢が早くなるのに合わせて、患者の年齢も若くなって来ましたが、がん年齢と言われるのは50代60代以降ですが、子宮頸がんは30代40代の発生が多いのが特徴です。子宮頸がん検診で見つけられる前がん病変(異形成はそれよりもさらに若い人たちに多く見つかります)。

ワクチンの接種率

HPVに対するワクチン接種が2006年から始まり、日本では、2013年に定期接種が始まりました。しかし、重篤な副作用への心配から接種を呼びかけられず、接種率がほぼ0%の状態が10年間続きました。その間、副作用につ

産科・婦人科医の

知っておいてほしいおはなし



炎症が強い時期(再燃期)と落ち着いている時期(寛解期)を繰り返すのが特徴で、腸の炎症が強い時期に下痢や血便、腹痛が起こります。腸のどのあたりで炎症が起こっているかによって症状の出かたや強さが違いますが、潰瘍性大腸炎は基本的に大腸の病気で、繰り返す下痢、血便、腹痛を伴うことが多いです。

一方、クローン病は、口から肛門までのいろんな部位の消化管に病気が生じる可能性があり、症状が多彩で、下痢、血便、腹痛に加えて、肛門周囲膿瘍や消化管以外の症状(発熱、関節痛、貧血、体重減少など)を伴うことがあります。潰瘍性大腸炎もクローン病も診断には内視鏡検査が重要になります。炎症性腸疾患の治療はこの20年で飛躍的に進歩しています。長く付き合っていく病気でですが早く診断し適切に治療を継続していくことが大切です。当センターでは、小児の消化管内視鏡検査を行っています。基本的には2泊3日の入院検査となります。

血便の話はひとまず3回シリーズで終わりにします。これまでご紹介してきた腸重積、腸管感染症、ポリープ、炎症性腸疾患のいずれの診断・治療にも当センターで対応していますので、血便で心配なことがあれば、かかりつけの先生を通じていつでもご相談ください。

いてさまざまな調査が行われ、重篤な副作用は、ワクチンとの因果関係がないというデータが蓄積されました。また、日本以外の国では、この10年間ずっと接種が続けられてきましたが、副作用は問題になっておらず、子宮頸がんの発生も減少しています。

12〜26歳の方はぜひワクチン接種を

このようなことから、今年から再び積極的なワクチン接種を勧められる広報活動が始まっています。定期接種(自己負担なし)の対象は、中学1年生から高校1年生で、予防効果がより高い9価ワクチン(シルガード®)が受けられるようになります。

さらに、キャッチアップ接種として1997年度から2005年度に生まれた方は、2025年3月まで無償接種が行われています。キャッチアップ接種の方は3回の接種が必要ですので、来年の10月までに接種を始める必要があります。3回の接種を自費で受けると、10万円程度必要ですので、お得です。

お近くの産婦人科で相談いただければ、月経の悩みの相談なども一緒にしていただけます。内診を受ける必要はありませんので、ぜひこの機会をご利用ください。

キャッチアップ接種で、省こう! 接種の労力は、省こう! 接種の案内は、厚労省から



母乳育児の神秘

シリーズ最終話

授乳室のおはなし



今回は、授乳室に関する話題です。乳児育児中のお母さんにとって、外出時の授乳は、大きな課題ですね。駅や商業施設等、いろんな場所に授乳室が設置されているのを見かけます。とても素敵な社会の取り組みですね。

一方、その授乳室はあかちゃん目線、母乳目線で整備されているのでしょうか? あかちゃんにとっては、静かな環境で自分のペースに合わせて授乳してもらえようという空間が望ましいでしょう。お母さんにとっては、気が散らず授乳に専念できるようなプライバシーが確保されているといいでしょう。

ミルクを調乳するには、水回りやポットやレンジがあると助かりますね。そのような授乳室には係員の配置が望まれます。また、お父さんにも使ってもらえる、一緒に利用できる授乳室も素敵ですね。

ただし、男性が入室できるようにするには、施設のできる個室化や入室時のチェックや監視カメラ、監視員配置等セキュリティ強化が必要となります。そして、どんな授乳室かがわかるピクトサインも工夫されています。授乳室=哺乳瓶マークでは情報が不十分で初めての方は使いづらいですね。



お母さんたちには、普段から授乳室を覗いてもらって、自分の授乳にあった環境かどうかを確認していただくといいでしょう。もしそうでなければ、ご意見箱に要望しておくで改善してくれるかもしれません。

世の中にとって大切なすべてのあかちゃんのために、社会で授乳環境、母乳育児環境を整えてあげましょう。

さて、これまでプロローグに始まり母乳と母乳育児に関するさまざまな話題を提供させていただきました。今回で17回目となり、そしてエピローグとなります。お読みいただきありがとうございます。

母乳育児支援は誰もがができるあかちゃんへの優しさのひとつです。これからもみなさん一緒に応援・支援していきましょう。

白石先生、ありがとうございました!

